



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一七二号）

立春

二月四日

## 千支の山、馬山

登山愛好家の中には、今年初めて登るのは千支の名がついた山へ、という趣向をこらす方もいらっしゃいます。

今年も午年。ウマにちなんだ山ということと長野県の駒ヶ岳などを思い浮かべますが、伊勢周辺にもあるということ。伊勢市楠部町の森田和夫さんたちに連れて行ってもらったのが、南伊勢町の馬山でした。馬に山と書いて「まやま」と呼びます。山頂部が平らで、馬の背に見えることからこの山名が付いたといわれます。

南伊勢町の愛洲あいすの里から一時間あまりで登れる山です。途中、南北朝のころに、南朝方としてこの地域に勢力をもっていた愛洲氏の居城きよじょう、五ヶ所城跡があります。ここは剣道の祖として知られた愛洲移香齋いこうさいの顕彰碑も立てられ、霧囲気のある地です。この城跡の東方にあたる馬山は標高一九八・九メートル。山頂からは五ヶ所湾が一望でき、すばらしいパノラマが楽しめます。さすが、三角測量の基準点となる国土地理院の三角点のあるところだけに、見晴らしがききます。

そしてこの山頂部には、馬山城または狼煙場のろしばがあったとされます。『三重県の地名』（平凡社）によると、約五十メートル四方の平坦部には、中央に巨石がありそこが狼煙場だといいます。それは馬山から北西約三キロの地点の中央狼煙場と呼応していたのかもしれないと推測していました。

ここからだ、五ヶ所湾から入ってくる船の動きは逐一わかります。海からの敵方の動きを見張るには最適の場所です。残念ながら私たちは、狼煙場跡はわかりませんが、すばらしい眺望にひそむ中世の勢力争いの攻防を垣間見たように思いました。

文 千種清美

